

広島空港特定運営事業等 マスタープラン



広島国際空港株式会社

※ このマスタープランは、2020年7月の提案時における想定です

中四国の持続的成長を牽引し続ける圧倒的No. 1 ゲートウェイ

広島空港を「あらゆる旅行者に最も選ばれる玄関口」へ、中四国を「世界に選ばれる目的地」へ



戦略的事業方針

1. 中四国で唯一無二の航空ネットワークの構築
 - 中四国で唯一の国際路線の誘致
 - 本邦LCC・リージョナルキャリアの拠点化
 - アジア主要路線のデAILY-化
2. 全旅程において旅客の期待を上回る感動体験の提供
 - 中四国全域の航空需要を取り込む交通拠点化
 - 旅を彩る新たな商業体験の提供
 - 臨空エリアと一体で中四国の魅力を発信する観光拠点化
3. 観光・ビジネス双方によるインバウンド・アウトバウンド需要の創造と獲得
 - 中四国観光の課題解決により、世界に選ばれる目的地へ
 - 構成員自らによる需要創造と空港の利用促進

2050年度目標値

- 旅客数 586万人
- 貨物量 26.2千t
- 路線数/便数 国内線：8路線/2.4万便
国際線：22路線/1.6万便
- 航空系収入 19億円
- 非航空系収入 132億円
- 総合満足度：8.0
- NPSスコア：20.0
- 搭乗手続きに係る時間 国内線出発10分以内

※ このマスタープランは、2020年7月の提案時における想定です

中四国で唯一無二の航空ネットワークの構築

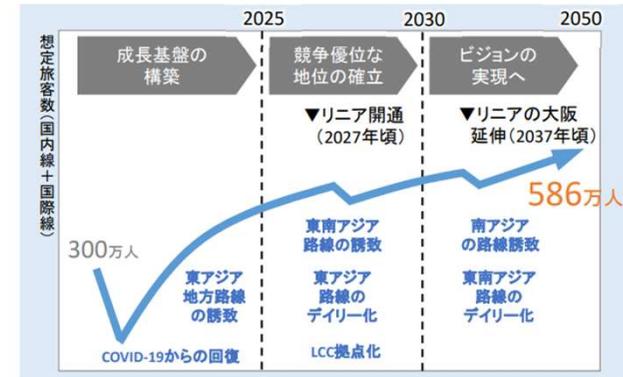
- ターゲットの特性を踏まえて最適な方法で需要を創出し、新規就航路線の実現可能性を向上
- 構成員ネットワークを最大限活用し、蓋然性の高い誘致活動を実施
- ネットワーク戦略に即して施設運用を実現するとともに、グラハンの受入容量を強化
- ターゲットとするエアラインの特性に鑑み、採算性を考慮した就航しやすい料金施策を導入

* 将来イメージ



路線数		年間旅客数	
現状 2018年度	12路線 (国内5路線、国際7路線)	現状 2018年度	300万人 (国内265万人、国際35万人)
30年後	30路線 (国内8路線、国際22路線)	30年後	586万人 (国内350万人、国際236万人)

成長ステップ



航空ネットワーク

- 国内線**
 - LCCの拠点化による低廉な路線の拡充
 - 地方路線の拡充
- 国際線**
 - アジア主要路線のデイリー化
 - 東アジアの地方都市や東南・アジア路線の誘致
- 就航・増便促進**
 - 専門性と地域との強固なネットワークを有する誘致体制
 - 地域の「草の根」レベルの航空需要の集約
 - 内際共用を含むスポットの増設による受入体制整備
 - グランドハンドリングの体制・容量強化
- 料金施策**
 - 就航コストや固定費の低減
 - 復便や新規就航を促す割引・インセンティブ
 - 就航後も路線採算性向上を支援する料金施策

※ このマスタープランは、2020年7月の提案時における想定です

全旅程において旅客の期待を上回る感動体験の提供

交通ネットワーク

空港アクセス

- 広島市内方面バスの大幅増便
- 東広島駅へのバス路線新設による新幹線への接続強化
- 直行バス路線の拡充（9→17路線）
- 交通モードの多様化（7モード新規追加）

連携強化

- 中四国の広範な交通事業者（鉄道・バス・船舶等）との連携強化によるシームレスな移動の実現

空港施設等の運用

旅客動線と商業エリアの刷新

- 需要拡大に合わせ、段階的に増築
- 搭乗直前まで快適な時間を過ごせるよう、制限エリアの店舗を拡充
- “地域”を訴求するショーケース化
- 免税店の充実・ウォークスルー化

内際ファストトラベルの推進

- 内際の保安検査場の拡張
- スマートセキュリティの導入による搭乗手続き時間の改善
- デジタル技術やWebを活用した利便性・満足度向上

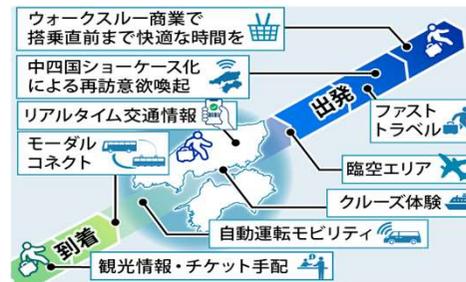
交通機能の強化

- 駐車場容量の増強と多様な利用者のニーズに応える駐車場料金体系
- 国内線・国際線到着エリアの一体化、バス待合スペースの屋内化
- レンタカーステーションの新設

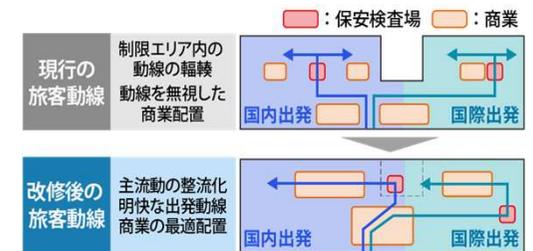
* 将来イメージ



将来の旅行体験



シンプルなウォークスルー動線の実現



※ このマスタープランは、2020年7月の提案時における想定です

全旅程において旅客の期待を上回る感動体験の提供

ターミナルビル出発ロビー



スマートセキュリティを導入した保安検査場



ウォークスルーで楽しめる国内線商業エリア



瀬戸内の海と島を表現したバスターミナル



日本初のオープンラウンジ



快適に楽しめる免税エリア



※ このマスタープランは、2020年7月の提案時における想定です

観光・ビジネス双方によるインバウンド・アウトバウンド需要の創造と獲得

空港の 利用促進 ・需要創造

- 発地側におけるデスティネーションマーケティングによる中四国の観光目的地としての認知度向上
- 地域の観光事業者等との連携による中四国周遊需要の創造
- 中四国の法人利用の促進やビジネス需要創造のための「サポーターズ倶楽部」の組成
- 強固な官民連携による地域一丸となったエリアプロモーション・エアラインセールス

社外との 連携

- 中四国地域及び就航先の観光関係者、政府観光局、行政と連携し、関係者一丸で広島空港の利用を促進
- 地域の交通事業者との連携により、交通ネットワークを構築し、中四国地域の往来需要を獲得

連携イメージ



地域との 共生事業

- 空港振興・環境整備支援機構の地域共生事業の確実な承継に加え、地域活性化に従前以上に注力

安全・安心な空港の実現

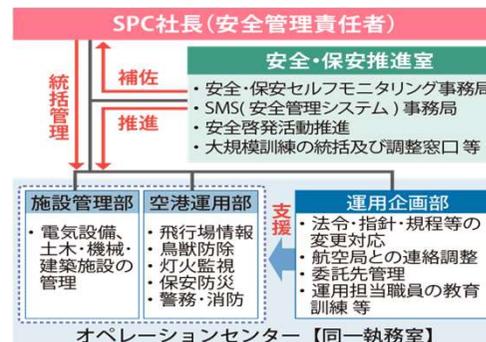
安全・保安に関する 基本施策概要

- 経営トップを中心に空港関係者が一丸となって安全・保安を確保する体制構築と風土醸成を実現
- 他空港やインフラの運営経験を持つ株主と地元株主の知見とリソースをフル活用

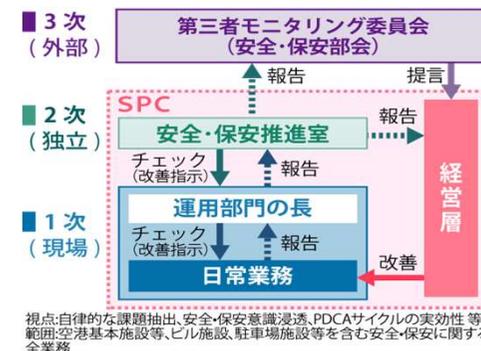
安全・保安に関する セルフモニタリングの 基本方針概要

- 安全・保安に関する全業務を対象とする3段階のモニタリング体制
- 3次モニタリングは外部有識者を含む第三者委員会形式とし、多面的にチェック

安全・保安管理体制



セルフモニタリング体制図

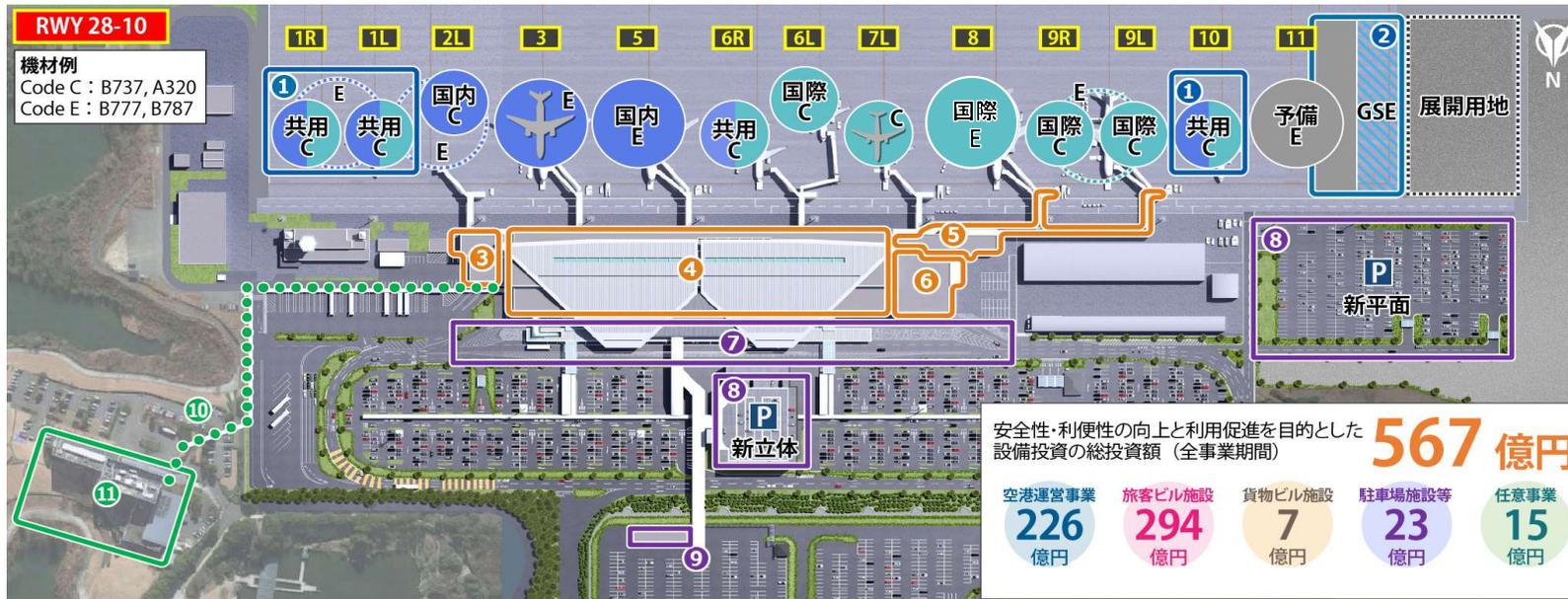


視点:自律的な課題抽出、安全・保安意識浸透、PDCAサイクルの実効性等
範囲:空港基本施設等、ビル施設、駐車場施設等を含む安全・保安に関する全業務

※ このマスタープランは、2020年7月の提案時における想定です

30年後の施設配置図及び各施設の概要

- 施設の機能強化により、旅客及びエアラインの受入態勢を整備し、航空ネットワークの構築を促進
- 時代の変化を捉えた施設機能や運用のアップデートにより、快適で魅力的な旅行体験を提供
- 安全・安心の確保を最優先に、ICT導入や構成員の知見活用により、空港機能維持と運用高度化を実現
- 空港内事業者の人材採用支援や環境対策等により、事業期間に亘る安定的な運用を実現



⑤国際線増築Ⅰ期

- ▼保安検査場・免税店拡張
- ▼ゲートラウンジ拡張

⑥国際線増築Ⅱ期

- ▼保安検査場・出国審査場再拡張
- ▼インライン型検査装置の新設

⑦カーサイド・道路整備

- ▼車両動線改良
- ▼一般車降車帯の新設

⑧駐車場容量の拡大

- ▼立体駐車場の新設
- ▼新平面駐車場の整備

⑨レンタカーステーション新設

- ▼レンタカーの利便性向上
- ▼車両ストックヤードの確保

⑩ホテル歩行者空間整備

- ▼歩行者用ルーフの延伸

①内際共用スポットの増設

- ▼LCC拠点化への対応
- ▼駐機場運用の柔軟性確保

②エプロン整備

- ▼国際線スポットの増設
- ▼GSE置き場の移設拡張

③国内線増築

- ▼VIP動線新設、発電機更新
- ▼ランプバス乗降場新設

④旅客ビル増築・改修

- ▼ファストトラベルの推進
- ▼制限エリア拡張・商業改修

⑪エアポートホテル改編

- ▼客室リニューアル
- ▼観光客向け機能の強化

※ このマスタープランは、2020年7月の提案時における想定です